

+ 2015 年度 センター試験 倫理、政治・経済（本試験） ワンポイント解説

第1問		<p>倫理分野・リード文は「倫理」の第1問と同一で、設問は「倫理」第1問からの抜粋。</p> <p>問1 倫理01と同一。平易な事実関係を問う。</p> <p>問2 倫理02と同一。マージナルマンに注目すればよい。</p> <p>問3 倫理05と同一。a)古代ギリシアの四元徳には、知恵・勇気・節制・正義がある。c)ロールズの正義論は、功利主義を批判するものであるが、これは少々難しかったかもしれない。</p> <p>問4 倫理07と同一。単純な資料読み取り問題であるが、叙述が曖昧なこともあって判別しづらい。</p> <p>問5 倫理08と同一。本文の趣旨は、医師リウーが人類の救済より目の前の人間の健康を重視することである。それを批判的に捉えているものをえらべば良い。</p>
第2問		<p>倫理分野・リード文は「倫理」の第3問と同一で、設問は「倫理」第1・3問からの抜粋。</p> <p>問2 ①「鎮護国家の考え方を否定」が間違い。最澄は鎮護国家のために天台宗を開いた。③「鑑真が伝えた正式な授戒儀式に立ち戻るべき」が間違い。鑑真の小乗系授戒儀式に対し、最澄は大乗系授戒儀式を主張した。④『三教指帰』は空海の作なので間違い。</p> <p>問3 倫理18と同一。苦諦とは、人生はすべて苦しみであるということであるから、①は間違い。集諦とは、苦の原因は迷妄と執着にあるということであるから、②は間違い。滅諦とは、迷妄を離れ執着を絶てば悟りに至るということであるから、④は間違い。道諦とは、悟りに至る実践的方法には八正道がある、ということであるから、この点でも④は間違い。</p> <p>問4 倫理25と同一。ア「上下定分の理」は林羅山である。イ「自然世」は安藤昌益である。ウ「天道と人道」は二宮尊徳である。</p> <p>問5 倫理11と同一。「智慧出でて大偽あり」は、儒家を批判する老子の言葉である。</p> <p>問6 ①「主観のみが確か」の箇所が不適當である。②「名のある芸術家」の箇所が不適當である。④近代批評の確立者は小林秀雄である。</p> <p>問7 倫理28と同一。①「忠実に模倣」とあるが、リード文において「忠実に真似ようとした」のは、第2段落の古代人だけである。②「知的な営みの無力さをわきまえ」とあるが、無力さと向き合ったのは、第2段落における末法時代の思想家だけである。③「近代以降の学問をよりどころとして、よき生を求める」とあるが、リード文において近世以降に言及しているのは第3段落と第4段落だけであり、本文の趣旨に合致するとは言えない。④困難から目を背けず、よりよく生きるための学びに努力する、というのは、リード文の主張ともなる第1段落と第5段落の内容である。</p>

第3問		<p>倫理分野・リード文は「倫理」の第4問と同一で、設問は「倫理」第2・3問からの抜粋。</p> <p>問1 倫理15と同一。アは、「その掟を全うすることによって罪を贖う者は救われる」が間違い。キリスト教では、贖罪とはイエス＝キリストが人類の身代わりとして十字架上で犠牲になったことをいう。ウは、「聖職者と一般信徒」が間違い。イスラム教では、聖俗の区別がなく、聖職者は存在しない。</p> <p>問2 倫理30と同一。帰納法に着目して、③がベーコンの記述であると確認する。</p> <p>問3 倫理31と同一。ニューハーモニー村・ファランジュ・フェビアン協会に注目して判断すればよい。</p> <p>問4 倫理32と同一。コントは三段階の法則を唱えた。人間の知識は神学的段階から形而上学的段階を経て実証的段階に至って完成する。また、それにもなって社会も進歩し、軍事的社会から法律的社会を経て産業的社会へと移行する、とした。①はデューイ、②はサルトル、③はヘーゲルである。</p> <p>問5 倫理34と同一。カントの『純粋理性批判』『実践理性批判』『判断力批判』の三大批判書は有名である。bの感性は少々難しかったかもしれない。</p> <p>問6 倫理17と同一。引用文の中ほどに「……これに対し、人が対話の技術を用いながら」で始まる一文がある。それを手掛かりに正解を導くことができる。</p> <p>問7 倫理37と同一。①の危機管理の徹底はリード文の趣旨とは異なる。③は、「科学なしの世界にいったん戻って」とあるが、最終段落に「理性を全面否定することはできない」とあるので、不適当である。④は、「これまでと同様に科学技術を信頼しつつ」とあるが、最終段落に「科学技術の制御も含め、理性のあり方を再検討し」とあるので、不適当である。</p>
第4問		<p>政経分野・リード文は「倫政」のオリジナルで、設問は「政経」第1・5問からの抜粋と「倫政」のオリジナル。</p> <p>問1 政経03と同一。カルテルは価格や生産量などについての協定であり、合併ではない。同一産業における合併はトラストである。</p> <p>問2 政経36と同一。国家の三要素とは領域・国民・主権である。</p> <p>問3 倫政オリジナル。日米英独の下院投票率のグラフを用いた純粋な読み取り問題。</p> <p>問4 政経06と同一。予算は国会の議決が不可欠、郵貯などの預託義務は廃止、補正予算は本予算の追加や変更である。</p> <p>問5 政経07と同一。イギリスは公費負担の比率が多く、ドイツは社会保険事業主拠出の比率が高いのが特徴。</p> <p>問6 倫政オリジナル。日本では、予算は両院協議会さえ開けば、再可決なしに衆議院の優越が認められる。この点に着目して判断すれば良い。</p>

第5問		<p>政経分野・リード文は「政経」の第3問と同一で、設問も同一。</p> <p>問1 政経17と同一。相続については民法が規定している。</p> <p>問2 政経18と同一。年代整序問題。おおよその年代が判別可能であるが、2014年に批准されたばかりの障害者権利条約が出題されたことに注目したい。ただし、これが批准されたことを知らなくても正解できるように出題が工夫されている。</p> <p>問3 政経19と同一。平易な出題。出版の差し止めを認めたのは『石に泳ぐ魚』事件。</p> <p>問4 政経20と同一。極めて平易な出題。</p> <p>問5 政経21と同一。検察審査員は裁判員同様に有権者名簿から無作為抽出で選出。</p> <p>問6 政経22と同一。男女雇用機会均等法は数値を割り当てるクォータ制などの積極的差別是正措置を容認していることも記憶しておきたい。</p> <p>問7 政経23と同一。2014年に設置された内閣人事局が出題されているが、その事実を知らなくても解答は導ける。ただし、2014年度の出来事が出題されたという事実には留意しておきたい。</p>
第6問		<p>政経分野・リード文は「政経」の第4問と同一で、設問も同一。</p> <p>問1 政経24と同一。年代特定問題であるが、サブプライムローン問題という大きな出来事であり、昨年度も出題されている用語なので平易。</p> <p>問2 政経25と同一。国際収支統計は2014年に改訂されているが、この設問は新旧どちらの統計でも判断可能な内容であった。</p> <p>問3 政経26と同一。BRICSの内容を知っていれば解ける。</p> <p>問4 政経27と同一。1970年代に急成長したラテンアメリカ NIES は1980年代に累積債務問題に苦しみ、1980年代に急成長したアジア NIES は1997年に通貨危機に見舞われる。こうした概要を押さえているだけで、ブラジルと韓国の判別は可能。</p> <p>問5 政経28と同一。ソ連のアフガニスタン侵攻とモスクワオリンピックとの関係は、2014年がアフガニスタン侵攻から35年、2015年がモスクワオリンピックから35年ということから留意していた受験生も多かったであろう。</p> <p>問6 政経29と同一。日本のGDPは世界で第3位であることを想起すれば、誤りは明白。</p> <p>問7 政経30と同一。市場機構のグラフ問題であるが、出題の意図を読み取ってしまえば平易。読解力を試された問題とも言える。</p>